

「海」



海 油彩、キャンパス 1951-52年 24.3×33.4

「山湖」



山湖 油彩、キャンパス 1951-52年 61×72

絵は心の恋人探し

その17

地球の裏側から寄贈された絵

『山湖』『海』

菅野圭介

私が東京の京橋で「美術研究藝林」を主宰していたころ、山田妙子さんというブラジル在住の見知らぬ女性から一通の便りが届きました。北御牧の芸術むら公園に梅野記念絵画館を開設する話が持ち上がったころです。9年ほど前のことです。

山田さんの手紙は「洲之内徹の風景」という追悼集によせた私の文に共感と興味を覚えたというものでした。ブラジルといえば、菅野圭介がサンパウロ近代美術館で個展を開いて好評を博し、ほとんどの作品が売れたということを私は知っていたので、「菅野の絵をブラジルで探してもらえないだろうか」と無理を承知でお願いをする返事を送ったのでした。

それから二か月ほどして、山田さんからブラジルの日系作家の会長をされている豊田豊さんを紹介していただき、偶然帰国されていた豊田さんにお会いすることができました。豊田さんは、ブラジル日本洋画壇の長老大竹富枝さんがブラジルで菅野に師事していたことも知っておられ、私の願

を快く引き受けていただきました。

それから3か月ほどたったころ、豊田さんから「菅野の絵を2点帰国時に持って帰るので楽しみにして下さい。」という知らせを受け、私はその2点を見ることができたのです。それが「山湖」20号、「海」4号です。

豊田さんによれば、この2点の作品は大竹さんの弟である中久保益太郎さんのご遺族が所有していたもので、豊田さんから私の菅野の絵に対する思いを聞き、絵画館に寄贈することを快諾頂いたということでした。

絵画館開設にあたり、私は当時の小山治村長にそのことを話し、村長から感謝状を贈ってもらったことを思い出します。

ブラジルの日系の方々善意により寄贈された絵が当館に保存されていることを皆さんに知っていただき、梅野コレクションのメイン画家菅野圭介のより一層の顕彰活動をすすめていきたいと思っています。

(文・梅野 隆館長)

交通のご案内



●は信号を表します

編集後記

▼今年の8月を過ぎて「節目の年」という言葉を多く見聞きしたように思います。皆さんはいかがお感じになりましたでしょうか▼広島・長崎の原爆投下から60年、日航機墜落事故から20年、終戦から60年：世代によってその感じ方も違うのではないかと思います▼8月15日、市内では成人式が行われました。日航機事故の年度に産まれた方々が新成人にあたることを考えると、若いつもりでも年齢の差を感じてしまいました。それぞれ夢と希望にあふれんばかりの笑顔に、私も自然と頬がゆるみました▼一方、「大人が残した課題を下の世代に背負わせたくない」「戦争、飢餓、テロを私たちが止める日がくることを願う」という新成人の発言にハッとしたいわゆる「大人」も私だけではなかったと思います。節目の年に、人生節目の新成人の方々が発したメッセージは意義深く感じられました。

(市報担当 久保)

人の動き

(8月1日現在)

世帯数

11,082世帯(+10)

総人口

32,116人(+2)

男 15,778人(-5)

女 16,338人(+7)

転入101人(±0)

転出 90人(-5)

出生 25人(+7)

死亡 34人(+16)

※カッコは7月対比

